





共通教育科目「哲学基礎B」
2008年度2学期木曜1時限
「認識するとはどういうことか？」

- 第10回講義(2008年12月11日)

§9 ゲティア問題

これまでの復習

§ 1 知識の分類

§ 2 ミュンヒハウゼンのトリレンマ

究極的に根拠付けられる知識はない
〈批判的合理主義〉: 可謬主義をとるが、
それでも反証されていない知識を採用する
ことは合理的な態度である。

§ 3 論理学や数学の正しさについて 規約主義のパラドクス

§ 4 経験的知識はどのようにして得られるか

経験的知識を次の4つに分けることができる。

- ① 感覚に基づくもの
- ② 記憶に基づくもの
- ③ 推論に基づくもの
- ④ 伝聞に基づくもの

- 最も基本的なものは、① 感覚に基づくものに
- 見えるが、しかし感覚だけでわかることはほとんどないことが解かった。

- 経験的な知は、アприオリな知と異なり、事実に基づく知であり、事実に関する知、つまり世界についての知です。
- 「世界についての知がどのようにして得られるのか」という問題は、「世界がどのように存在しているのか」という問題と密接に関係しています。つまり、この点において、認識論と存在論は、深く結びついています。

§ 5 観念論 対 实在論

§ 6, 7, 8

心身問題: 心は、物に還元されるのか?

知識とは何でしょうか。

- 本日紹介するゲティア問題というのは、経験的知識に関する難問です。

もしこれが解決できないとすれば、この議論は、経験的知識に対する批判、ないし懐疑論の一種だということもできます。

知識とは何か？（知識とは何か、議論しながら考えて見ました。）

0、事実

1、「考えられたこと」「思想」

1-1 真理値を持たない思想（詩や小説の文、命令、約束などの発話）

1-2 真理値を持つ思想

1-2-1 偽であると思っている思想 「 $1+2=4$ 」

1-2-2 真であると思っている思想（信念） 「「 $1+2=4$ 」は偽である」

1-2-2-1 ただの信念（*1）

1-2-2-2 正当化された信念（知識）

1-2-2-2-1 蓋然的な知識

1-2-2-2-2 確実な知識（*2）

（*1）我々は、＜何の根拠や理由や原因もなく何かを信じる＞ということはないように、
われる。たとえば、占いで明日が晴れだと信じている人がいるとすると、その人は占
いを信じており、それにもとづいて「明日はあれだ」を信じているのである。その人に
とって、占いは、根拠となりうるものなのである。つまり「ただの信念」は存在しない。

（*2）「確実な知識」というものは、ミュンヒハウゼンのトリレンマによれば存在しない。

そうすると、信念は、全て何らかの正当性を持つ、蓋然的な知識であることになる。

知識とは何か？



右側の人は誰ですか？

彼は、知識を「正当化された信念」と考えま
した。

知識の定義

SがPを知っているとは、次のときそのときに限る。

- 1 Pが、真である。
- 2 Sは、Pを信じている。
- 3 Sは、Pを信じることに、正当化されている。

(プラトン『テアイテトス』201、『メノン』98)

「3 Sは、Pを信じることに、正当化されている。」についてのゲティアの注意¹

- <SがPを信じることに正当化されているということが、SがPを知っていることの必要条件である>という意味での「正当化された」という意味において、<実際には偽である命題を信じることに、正当化されること>が、ある人物に関して可能である。

「3 Sは、Pを信じることに、正当化されている。」についてのゲティアの注意2

- どのような命題Pに関しても、もし
 - 1 SがQを信じることに正当化されており、
 - 2 QがPを含んでおり、
 - 3 Sが、QからPを導出し、Pをこの演繹の結果として受け入れるならば、その場合には、
SはPを信じることに正当化されている。

ゲティア反例1

<状況>

- 会社の社長が、ジョーンズが最後に選ばれるだろう、とスミスに確信させ、そして偶然に、スミスは、10分前にジョーンズのポケットの中の10個のコインを数えていた。
- スミスは知らなかったのだが、ジョーンズではなく、スミスが仕事を手に入れることになる。また、スミスは知らなかったのだが、スミス自身もポケットに10個のコインを持っている。

<このときのスミスの信念>

- Q「ジョーンズは、その仕事を手に入れる男であり、かつ、ジョーンズのポケットに10個のコインを持っている。」
- P「仕事を手にする男は、彼のポケットに10個のコインをもっている。」

■ このとき、スミスの信念P

「仕事を手にする男は、彼のポケットに10個のコインをもっている。」

は、最初の定義によれば、知識である。

- 1 Pは真である。
- 2 スミスはPが真であると信じている。
- 3 スミスは、Pが真であると信じることに
おいて正当化されている。

しかし、これが知識でないことは明らかである。

では、3が成立していないのでしょうか？

「3 スミスは、Pが真であると信じることに
おいて正当化されている。」

は成立しているのだろうか？

- 1 スミスの信念Q「ジョーンズは、その仕事を手にする男であり、かつ、ジョーンズのポケットに10個のコインを持っている。」が正当化されている。
- 2 Qは、P「仕事を手にする男は、彼のポケットに10個のコインをもっている。」を含意する。
- 3 スミスは、QからPを推論して、Pを信じる。

定義により、スミスの信念Pは正当化されているように見える。

1がおかしいのだろうか？

スミスの信念Q「ジョーンズは、その仕事を手に入れる男であり、かつ、ジョーンズのポケットに10個のコインを持っている。」は、正当化されているのだろうか？

■ <状況>

- 会社の社長が、ジョーンズが最後に選ばれるだろう、とスミスに確信させ、そして偶然に、スミスは、10分前にジョーンズのポケットの中の10個のコインを数えていた。

信念Q「ジョーンズは、その仕事を手に入れる男であり、かつ、ジョーンズのポケットに10個のコインを持っている。」

信念Qの、前半部分が偽であった。しかし、前半部分もまた正当化されている。なぜなら、

ゲティア反例 2

<状況>

- スミスが記憶する範囲内で、ジョーンズは過去においていつも自動車を所有しており、いつもフォードであった。
- スミスにはもう一人の友人ブラウンがいるが、彼がどこにいるのかについて、スミスはまったく知らない。

<スミスの信念>

スミスは、正当化された信念「ジョーンズは、一台のフォードを所有している」をもっている。

さらに、スミスは、ランダムに3つの場所の名前を選び、次の3つの命題を作る。

g ジョーンズはフォードを一台所有している、あるいはブラウンはボストンにいる。

h ジョーンズがフォードを一台所有している、あるいはブラウンはバルセロナにいる。

i ジョーンズがフォードを一台所有している、あるいはブラウンはプレストリトフスクにいる。

スミスは、fからg、h、iを導出して、それらが真であると信じている。信念g、h、iもまた正当化されている。

- <状況の追加>
- ジョーンズはフォードを所有していないが、しかし、いまは、レンタカーを運転している。
- 偶然の一致によって、スミスは全く知らないのだが、命題(h)で言及された場所が、たまたま実際に、ブラウンのいる場所である。

このとき、スミスの信念(h)は知識だろうか？

- 1 (h)は真である。
- 2 スミスは(h)が真であると信じている。
- 3 スミスは(h)が真であると信じることに
いて正当化されている。

このとき、定義によりスミスの信念(h)は知識となる。

しかし、これは知識ではないだろう。

ゲティアの結論

これらの二つの事例は、
＜最初に述べた知識の定義が、ひとがある
命題を知っている、ということについての
充分条件を述べていない＞
ということを示している。

ゲティア問題とは、知識をどのように定義するか、という問題です。

■ 本日のミニレポートの課題

ゲティアの反例を排除できるような、
知識の定義を提案してください。



